

■第二次新潟市下水道中期ビジョン検討委員会 第1回・第2回意見概要(1/4)

施策	番号	種別	項目	意見概要	対応案 ①素案に反映 ②評価書に反映 ③実施段階に反映 ④その他
施策 1 雨に強い都市づくり	1	今後の方向性	浸水対策 全般	浸水対策の考え方について、下水道施設だけでは大雨に対応しきれない部分があるので、農業水利施設の活用を検討するなど、関係機関と連携を深め、一体的な浸水対策の計画を立てていただきたい。	① 下水道施設整備だけでは浸水対策に限界があることから、既存ストックである農地や河川の施設など、関係機関と連携した浸水対策について、引き続き検討します。
	2			国費の影響を受けやすい浸水対策事業については、国の厳しい財政状況を踏まえ、新ビジョンを策定する中で実施内容を検討しなければならない。	① 限られた予算の中で推進していく必要があることから、緊急度の高い地域を選定し、効果的・効率的に整備を推進します。
	3		田んぼダムの整備	田んぼダムの整備による効果をより大きくするため、下水道部だけではなく、農林水産部や土地改良区と連携を図り、具体的な計画を立てていくことが必要。また、その際には、他市の成功事例を参考にすること。	① 田んぼダムを既存ストックと捉え、関係機関との連携した浸水対策を検討します。
	4			田んぼダムの整備を継続的に実施するため、財源の確保として、国に説明するなど、交付金の活用にチャレンジしたらどうか。	③ 既存ストックを最大限に活用できるよう、交付金の活用を検討します。
	5		汚水管への雨天時侵入水	汚水管への雨天時侵入水の問題が顕在化しているようであれば、現在、国が雨天時侵入水に対して検討をしているので、国の動向に注視し、実施について検討していくこと。	③ 雨天時侵入水は、問題として出始めているため、国の動向を注視していきます。
施策 2 下水道施設の機能確保と計画的な改築・更新	1	今後の方向性	将来に渡る改築・更新の事業費	これまでの調査結果における緊急度の割合が比較的高いように感じるので、将来に渡る改築更新の事業費を検討する際には、損傷度をどの程度に予測するか、やり方の工夫が必要ではないか。	① 将来に渡る改築更新の事業費を算出する際の損傷度予測については、地区ごとの損傷度実績を考慮するなど、より詳細な検討を行います。
	2		ストックマネジメント計画	ストックマネジメント計画について、策定して終わりではなく、着実に運用していくことが大事である。	① スtockマネジメントを実施する上では、日常の維持管理で得た情報を無駄なく、効率的に修繕・改築に生かしていくことが重要であるため、PDCAをまわしながら計画を更新していきます。
	1	内部評価書	③成果と課題の表記 ④今後の方向性の表記	国の改築・更新に対する計画づくりの考え方の変化について、市民の方にもわかるよう、記載について工夫した方が良いと思う。	② ③成果と課題のストックマネジメント計画の策定の表記について、国の改築更新に対する考え方が、個別施設の改築方針から全施設を対象としたマクロな改築方針に変更になったことが分かるよう、『個別改築計画から全体を俯瞰した改築計画へ』などを追記しました。
	2		内部評価書 全体 (緊急度Ⅰ・Ⅱ・Ⅲなどの追記)	緊急度Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの概要や速やかに措置が必要な緊急度Ⅰについて、優先順位が高くなることなどを記載することで、より分かりやすくなるのではないか。	② 管渠や処理場・ポンプ場の調査結果から対策が必要とされる区分や対応について表を追加し、また、文章の中に『緊急度Ⅰ』などの文言を追記しました。
	3		②主な取組み③成果と課題 (『改築・更新』と『再構築』の表現の違い)	市民に対する計画なので、『再構築』と、『改築・更新』という表現が同じ意味合いなら、表現を統一するなど分かりやすくなった方が良い。	② 躯体などの施設全体の更新を『再構築』、設備などの個々の更新を『改築更新』として区別していましたが、どちらも「既存の施設を新たに取替える」ことですので、表現を『更新』に統一しました。
施策 3 地震・津波対策の推進	1	今後の方向性	地震対策 全般	耐震化の整備について、耐震化が必要な管渠が数多く残っているため、優先度順位を考え、効果的・効率的に実施していただきたい。	① 限られた予算の中で推進していく必要があることから、優先順位を設定し、効果的・効率的に整備を推進します。
	2		津波対策	津波対策について、新潟市の場合は、海拔ゼロメートル以下に住宅地が広がっているため、非常に問題である。	① 新潟市は海拔ゼロメートル以下に住宅地が広がっており、津波浸水が発生した場合、排水を行わなければ都市機能が麻痺することは認識しています。
	3			津波対策を検討する際には、下水道部だけでなく、関係機関などと連携しながら、最も効果的・効率的な対策をしていただきたい。	① 津波対策は下水道部だけで対応できるものではないので、防災部局など、関係機関と連携を密にし、対策の優先順位などを設定するなど、効果的・効率的な対策を検討します。
	4			津波対策を検討する際には、現在、下水道協会が計画設計指針の改訂を行っており、その中で津波の深さによる対策内容について考え方の整理や全国の対策事例の収集を行っているため、下水道協会の動向を注視し、その内容を参考にすること。	③ 津波対策を検討する際は、最新の基準や指針を基に対策の可否も含めて検討します。

■第二次新潟市下水道中期ビジョン検討委員会 第1回・第2回意見概要 (2/4)

施策	番号	種別	項目	意見概要	対応案 〔 ①素案に反映 ②評価書に反映 ③実施段階に反映 ④その他 〕
施策 3 地震・津波対策の推進	5	今後の方向性	マンホールトイレの整備	マンホールトイレについて、「住民にできることは住民にやっってもらふ」との考えを含め、実施内容を検討するといいいのではないか。	③ マンホールトイレの設置・撤去など、避難所運営の中での住民の役割について関係部署と調整します。
	6			マンホールトイレを整備する避難所には、それぞれ高齢者が多い少ないなどの条件が異なるので、それらの条件をしっかりと踏まえた優先順位の中で実施していくことが重要。	① マンホールトイレを整備する避難所については、受入可能人数や排水を受ける管路の耐震化状況などの様々な条件を考慮し、優先順位を検討します。
	7			マンホールトイレの説明会については、マンホールトイレの使い方などの一方的な説明だけでなく、地域住民の意見を聞き、本当に求めているものが何かということまで含めたものにすることが必要。	③ マンホールトイレの説明会では、一方的な使用方法の説明だけではなく、地域住民の意見を聞くなど、よりよい避難所運営に繋がるよう情報収集します。
	8			マンホールトイレについては、水で流せる構造であることから、仮設トイレよりも臭いもなく、快適性、衛生面でも効果があることが分かる。	① 素案の作成にあたっては、マンホールトイレの特徴について、他の災害用トイレとの優位性を記載するなど、分かりやすさに配慮します。
	1	内部評価書	②主な取組みの表記	内部評価書のマンホールトイレの表記について、情報として、車椅子の方も使用できることについて記載した方が、より親切ではないか。	② マンホールトイレは車いすの方も利用できるタイプも整備していますので、『5基の内、1基は車いす用として広いタイプを整備』と追記しました。
施策 4 総合的な汚水処理の推進による未普及地域の解消	1	今後の方向性	農業集落排水施設の下水道への編入	農業集落排水施設の下水道への編入について、市民に説明する際には、スケールメリットが働くなどの効果を説明することで、より施策への理解を得やすくなるのではないか。	① 市民の方に理解してもらえよう、素案作成にあたっては、分りやすさに配慮します。
	2		公設浄化槽の整備	公設浄化槽の整備の課題への対策検討として、公設浄化槽の制度だけで考えるのではなく、耐震基準以下の住宅など、他の制度と絡めて考えるといいいのではないか。	③ 公設浄化槽の制度については、汚水処理施設整備のあり方の検討の中に含め、制度の見直しなどを行っていきます。
	1	内部評価書	①施策の目的（グラフ）	鳥屋野潟の水質（COD）と下水道普及率グラフについて、阿賀野川からの浄化用水による効果が大きいと思いますので、グラフの使い方について再検討したほうが良い。	② 鳥屋野潟の水質改善について、対策概要がわかるよう、グラフの下に『直接浄化対策（河川水を導入）と生活排水対策（下水道整備）により水質改善を図った』と追記しました。
	2		③成果と課題の表記	下水道処理人口普及率の指標が上がることで、目的である『豊かな水辺環境、にぎわい空間の創出』に寄与していることを記載することで、より分かりやすくなるのではないか。	② ③成果と課題の下水道人口普及率の文章について、指標の向上が何に繋がるか分かるよう『豊かな水辺環境、にぎわい空間の創出に寄与した』と追記しました。
	3		③成果と課題の表記 ④今後の方向性の表記 （あり方検討に至った経緯）	汚水処理施設整備のあり方の検討について、具体的な課題や方向性を記載することで、より分かりやすいのではないか。	② ③成果と課題の汚水処理人口普及率の文章について、『下水道への接続意思の低さなどが課題となっている』と追記しましたが、④今後の方向性については、現段階において具体的な手法は検討中であることから追記はしません。
	施策 5 下水道への接続の促進	1	今後の方向性	大口使用者への対応	大口使用者の未接続における全体的な影響と接続による効果を示し、大口使用者に対するアプローチの方法を検討したほうが良い。また、全体に占めるウエイトによるが、どうしていくか今後改善していくことが必要ではないか。
2		接続率の算出方法		水道メーター単位での接続率の他に、水量による接続率を算出することでインパクトがあるのではないか。	③ 一般的な接続率はメーター単位であるが、補助資料として水量による接続率を示すことは効果的であると考えため、実施段階に反映させていきます。
3		未接続者への対応		未接続者において接続するインセンティブがどこにあるのかわからなく、正のインセンティブと負のインセンティブを示して対応しないと、接続率の向上は難しいのではないか。	③ 接続は義務であるため、正のインセンティブを強調することは難しいが、負のインセンティブの強調は効果的であると考えため、実施段階に反映させていきます。
4		地域コミュニティの連携		接続率の低い地域へは、使用料などの観点だけではなく、下水道が魅力的なまちづくりだというような話をベースにするなど説明方法の工夫が必要。	① 意見を盛り込み、素案に反映させていきます。

■第二次新潟市下水道中期ビジョン検討委員会 第1回・第2回意見概要 (3/4)

施策	番号	種別	項目	意見概要	対応案 ①素案に反映 ②評価書に反映 ③実施段階に反映 ④その他
施策 5 下水道への接続の促進	1	内部評価書	③成果と課題の表記	大口使用者への対応について課題として記載した方がいいのではないか。	② 成果と課題について、「大口使用者アンケート結果の反映」を追記しました。
	2		④今後の方向性	地域コミュニティの連携について、全部を読むと意味合いは分かるのだが、「接続率が低い地域はコミュニティが強い地域」というものに違和感がある。コミュニティが強いということはいい方向にとれることなので、表現について変えたほうがいいのではないか。	② 今後の方向性について、コミュニティの強さを生かすべく「個別世帯への勧奨効果が低いことから」に修正しました。
	3		記載内容全般	整理の仕方として、この施策は、大きな枠組みとして、「だれに、何を、どうやって」ということを整理し、まとめ直すにより分かりやすくなるのではないか。	② 主な取組みの、助成金制度の効果において、「特に農村部で」を追記するなど、文章の整理を行いました。
施策 6 合流式下水道の改善	1	今後の方向性	合流式下水道の改善 全般	合流式下水道の改善の内容については、複雑なので、市民の方に分かりやすく伝えることは、これまで同様に課題である。	① 素案の作成にあたっては、市民の方に理解してもらえよう、図や写真を用いるなど、分かりやすさに配慮します。
	2	内部評価書	③成果と課題の表記	市民に公表する上で、「目標に届かなかった」ではなく、「計画の見直しにより改善策を打てなかった」などの記載に修正した方が、現状の課題をしつかりと捉えていることが伝わるのではないかと。	② ③成果と課題の表現について、現状の課題を捉えていることがより伝わるように、『計画の見直しを行っていたため、事業化に至らず』などの文章に修正しました。
	3		合流式下水道の改善率の指標	内部評価書の合流式下水道改善率の指標について、平成29年度の計画の見直しの内容から、人口減少などによりできた余裕分を見込むことにより、対策施設を整備しなくても負荷が削減できる。すなわち、改善率が上がると思われるので、計画の見直しも成果として捉え、見せ方について工夫した方がいいのではないか。	② 合流式下水道の改善率の指標について、見直し計画に位置付けた、『雨水浸透施設や遮集倍率増加の効果』を成果として捉え、指標の数値を修正しました。
施策 7 温室効果ガスの削減と 下水道資源の有効利用	1	今後の方向性	温室効果ガスの削減と 下水道資源の有効利用 全般	汚泥の有効利用などについて、今後のメニューの検討が難しいが、期待している。	① 温室効果ガス削減の対策を継続するとともに、下水道資源の新たな有効利用方法を引き続き検討します。
	1	内部評価書	①施策の目的 (写真)	①施策の目的について、下水処理工程において、温室効果ガスがどのような施設から排出しているのか、見てわかるような写真や説明があった方が、より分かりやすいのではないかと。	② ①施策の目的の表現について、処理場内における施設別の温室効果ガス割合の円グラフを記載するなど、より分かりやすい表現に修正しました。
施策 8 経営の効率化と経営基盤の強化	1	今後の方向性	経営基盤強化 全般	全体の経営として、コストと収入を考えていかなければいけないが、シミュレーションを行い、示すことで、市民にとって現状がどうなのか、何をしなければいけないのか分かりやすくなるのではないかと。	① 経営状況について、シミュレーション、比較分析をするなど、記載内容を工夫し、分かりやすい記載について検討します。
	2			将来シミュレーションを実施し、全体ストックの維持管理を行うための経費の把握などにより、厳しい状況を見せなければならぬ。また、国の交付金確保のためにもある程度定量的に説明していくことが必要。 今回のビジョン策定の中で分析・検討したものを例として国に主張するなど試みていただきたい。	④ 今後、他都市などと連携しながら対応について検討します。
	3			今後、重点的に実施すること、施策の優先順位などは将来シミュレーションとあわせて説明が必要。	① 素案作成において、経営分析を行い、各施策の実施と将来シミュレーションについてあわせて説明していきます。
	1	内部評価書	記載内容全般	経営の効率化、経営基盤の強化というときに、外部環境にあわせて組織を適用させていくということによく言われるが、組織の再編に取り組み、実施したということだけではなく、その結果、環境にどう適用できたのか成果についての記載ができればより説明力が高まるのではないかと。	② 組織再編について、「組織の再編により、建設から維持管理へのシフトに対応するための体制構築を行った」と追記しました。

■第二次新潟市下水道中期ビジョン検討委員会 第1回・第2回意見概要(4/4)

施策	番号	種別	項目	意見概要	対応案 ①素案に反映 ②評価書に反映 ③実施段階に反映 ④その他
施策 9 下水道の「見える化」 の推進	1	今後の方向性	「見える化」全般	市民の意見を十分に聞いて策定したビジョンであることが重要になると思うので、これからでも市民意識調査を実施し、次期ビジョンの施策に反映させることが必要ではないか。	③ 大々的な意識調査は困難であるため、アンケート調査等の方法を行い、調査結果を実施段階に反映させていきます。
	2			何を見せていきたいのかなどを整理したうえで今後の方向性が「市民ニーズを捉えた広報活動」というタイトルで良いか検討が必要ではないか。	② 見せることは手段であり、伝わることが目的であるため、今後の方向性について、「市民に伝わる広報活動」に修正しました。
	3			コンテンツを作るだけでなく、情報が自然と流れてくるように、SNS広告などを活用し、より下水道の情報を発信する手法の検討をしていただきたい。	③ 継続的に実施可能な手法を検討し、実施段階に反映させていきます。
	4		効果的な広報	縦割りの発想ではなく、柔軟な発想で情報を発信していく方策を考えてはどうか。 例えば、下水道のことだけではなく、防災という観点を組み込み防災部局と一緒に情報発信していくなど、これまでと違う切り口で市民に理解してもらうことが必要。	③ どの部署と、どのような面で連携可能なのか、どうすれば効果的かを総合的に検討し、実施段階に反映させていきます。
	5		市民との協働	下水管の見学などの参加型のイベントを実施するなどすれば、参加者が情報を発信してくれることも考えられるので、検討してはどうか。	③ 施設見学を含め、財政負担が少なく、かつ効果的なイベントを検討し、実施段階に反映させていきます。
	6			市民との協働について、どの程度の協働を求めていくのかなど更に詳細に記載し発信していただければ、もっと下水道を身近に感じられるのではないか。	① 自治会・町内会が担うべき役割を整理し、どの程度まで具体的に記載できるかなどを検討し、素案に反映させていきます。
	1	内部評価書	記載内容全般	施策の目的と取り組み、成果と課題の対応関係が分かりにくいので、それぞれつながらうような整理が必要ではないか。	② 主な取り組み内容を、成果と課題の指標に反映させ、対応関係が分かるよう表を修正しました。
	2		③成果と課題の表記	「市民意識調査」項目の29年度記載について、「実施・検証」とあるが、説明では実施していないということなので、実績としては削除していただきたい。 (26年度のアンケートについて、項目・結果について開示していただきたい)	② 成果と課題の表に、目標と実績欄を設け、未実施である旨追記しました。
全施策 共通	1	今後の方向性	各施策 共通	下水道の有効利用など、市民として魅力的な取り組みについて徐々に増やしPRして行ってほしい。	③ ご意見を踏まえ、実施段階において、市民の皆さまに分かりやすく「見える化」を図っていきます。
	2		各施策 共通	環境ということも非常に大きな要素であるとともに、健康にも関わってくるといった視点で、全体として整理する必要があるのではないか。	① 素案検討において、様々な視点から整理し、反映させていきます。
	1	内部評価書	各施策 共通	施策ごとのまとめ方だけではなく、接続が増えないとサービスがしっかり受けられないことや、下水道サービスの中に融雪機能への活用など、全体的にまとめた資料があった方がいいのではないか。	① ご意見を踏まえ、素案作成において、全体概要版を作るなど分かりやすい説明に努めます。